

知事と区市町村長との意見交換（小笠原村）

令和元年 9 月 25 日（水）

11 時 10 分～11 時 30 分

○**行政部長** それでは意見交換を始めさせていただきます。冒頭、知事から一言お願いいたします。

○**知事** おはようございます。まさしくご遠方からわざわざお越しいただきました。また、返還 50 周年の際は、大変いいイベントで、一つの大きな節目を迎えられ、また、次への出発をされているところだと、このように思います。長期戦略を策定中でございまして、都のこれからのビジョンを年内にまず描きます。その後、さらに肉付けをしていくという中において、島の皆様方のこれからの持続可能性のある発展をどうあるべきなのか、ご意見伺いたく思います。どうぞよろしく申し上げます。

○**行政部長** 森下村長、よろしく申し上げます。

○**小笠原村長** どうも、おはようございます。昨年は本当に母島の方までわたっていただきましてありがとうございました。おかげさまで、父母 50 キロございますが、知事が母島までわたっていただいたということで、住民一同、大変喜んでおりまして、素晴らしい式典にすることができたと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いをいたします。

各離島で、それぞれ伊豆七島と、私どもの小笠原と事情は異なるとは思いますが、私どものところは、返還 50 年を過ぎて、新しい時代に気持ちを新たにしているところですが、一つは念願にあります空路の事でございます。やはり、村民の安心・安全の確保という観点から、何とか空路の開設をして、みんなが安心して暮らしていけるようにということ、これはまず、先日、台風 15 号、その前に 10 号と、私どものところは幸いにして大きな被害はなかったんですが、やはり、台風の進路が小笠原の船の航路に当たるということで、10 号では欠航、それから、先日の 15 号では 5 泊で運航するところを、2 泊の運航と運航が変わってきたということで、一週間とか、下手をすると十日という、貨物が来ないとか、郵便物が来ないとか、特に 50 キロ離れた母島はもっと影響受けることもありまして、そういう災害対応のことを考えましても、空路を願っているところでございます。

幸い、知事の方から、今までにない、今年度は過去の 4 倍ぐらいになります 4 億 9 千万円の調査費を付けていただきました。この調査をしっかりといただいて、小笠原に本当に自然環境に配慮をしながら、航空路の開設ができるのかどうかということをお早急に検証して、我々に案を示していただければと願うところでございます。

もう一点は、ここがほかの島と大きな違いがあると思うんですけど、幸いにして、私どものところは、少子高齢化とか、人口減ということではなくて、推移をしております。子供たちの出生数が年間 30 から 40 人というところで、大変ありがたいことなんですけれども、実は、保育園ですとか、それから小中学校の施設が古くなっておりまして、なんとかこれからの時代を担う子供たちに元気に活躍をしていただくための、今、その環境整備に

取り組んでいるところでございます。母島の方では、保育園の方を、既に取り掛かっておるのですが、父島では、小中学校、現在小学校で170名ぐらいの生徒おまして、つくった時の教室が20名ぐらいの想定でございました。今30名になろうというところ。中には30名を超えている学年もございまして、ここが早急に望まれるところですが、特別振興法との関係で、財源の方がなかなか難しいやり繰りになると思います。私どもと足並みをそろえていただいて、東京都の方にも力強くご要望をしていただければと願うところでございます。大きくこの二点をお願いをしたいと思っております。

○知事 はい。二点についてのご要望と、そして、今後の小笠原のあるべき姿、また、ビジョンということもお話しいただいたかと思えます。安心した村民生活のために、航空路の確保は切実な願いということをずっと伺ってまいりました。

航空路の開設は村民生活の安定、そして、小笠原諸島の自立的発展を図るという意味では、大変重要と認識しております。また、村民の切なる願いであるということについては、これまでも何度か伺わせていただいて、十分承知しております。

ご承知のように、現在、洲崎地区を活用案に絞りまして、集中的に検討を重ねています。今年度は、これまで実施してまいりました機材であるとか、自然環境への影響をはじめとする調査、それから、現地の地質や気象など、新たにより詳細な調査に着手をしているところであります。これらの調査結果を踏まえて、引き続き自然環境と調和した、実現可能な航空路案が取りまとめられますように、国や小笠原村、皆様方と緊密に調整を行って調査を加速していきたい。そして、また精力的に検討を進めてまいります。

また、人口について、平成29年が2,594人から増えて、最新で2,625人ということで、離れた島ではありますが、むしろそれが魅力となって、とても若い人が多い。高齢化率が15.6%ということで、これは本当に若々しい島であるということを実証しているかと思えます。

そういった観点から、今お話にありました振興開発事業の予算についても、小学校、中学校の充実、そのほか、様々な環境を整えてほしいというお話でございまして、これにつきましては、着実に整備が進むように、これ振興法の関係でもございまして、国に対して引き続き強く働きかけを共に行なっていきたいと思えます。また、都といたしましても、村の実情を踏まえながら、適切に支援をしていくということ、関係部署にも指示をいたしております。

やはり、小笠原の自然は、世界にPRしても十分、魅力的な島でありますし、これからも観光という点でもPRをしてまいりたいと思えます。

また、村民の皆さんは、防災とか医療とか、そういった、生活に関係したところからの航空路の確保という、その点をおっしゃっておられるのを承知しております。最近、ここまで心配するまでにはいかないかもしれませんが、オーバーツーリズムということがあって、特にエコツアーなどはそれが求められるところでございますので、そういう観点も含めて、これからも、実際どうなのか、自然にとってどういう負荷になるのか、ならないのか。その辺を、慎重に、また、引き続き様々な調査を続けていきたいと思えます。

○行政部長 村長いかがでしょうか。

○小笠原村長 今、知事が指摘していただいた観光でも、私ども、早くからエコツーリズムに取り組んでおまして、エコツーリズムを観光振興の基軸として今まで取り組んでまいりました。おかげさまで、世界自然遺産の登録もなり、コンスタントに、いろんな、シニアも含めて若い方からシニアまでご来島いただいております。

これは、おがさわら丸という船しかないということで、そういう意味では環境容量をオーバーしないようなツーリズムとして成り立っておりますと同時に、コンスタントに来ていただいていることによって、繁忙期と閑散期というものがなくなりまして、1年を通して来ていただいています。小さい経済ですけれども、産業も振興し、経済活動も活性化しているところがございます。航空路については、ライフラインとしての航空路ということをご要望しているわけですけれども、そういうことを踏まえながら、これからも取り組んでまいりますので、是非お力添えをと思うところがございます。

○知事 ありがとうございます。ちなみに、毎年30人から40人、2,600人の島で生まれるということは、出産は島内でされる方のパーセンテージはどれぐらいなんですか。それとも、皆さんは、本土の方で出産をされて、子供さんと戻るとというのが一般的なんですか。

○小笠原村長 実は、私が就任した時が平成15年でしたが、その時から、出産を内地で行っていただきたいということを、ご婦人の皆さんにお願いをしまして、二十数回にわたり住民説明会をやらせていただきました。うちの医師も入りまして、と申しますのは、急患搬送も要請をしてから、大体早くても病院に着くまで9時間というような中で、仮に妊婦さんが何かあったときには、母子二人の命に関わるということがございますので、今の出産は産婦人科医だけがいるだけでは行えないこともございますので、今は内地の方に来ていただくようにしております。

特に問題でございましたのが、1子、2子をお持ちの方が、子供たちを置いて旦那さんに任せてはなかなか出産に行けない事情も聞かせていただいて、それは、東京都の方にもお願いをし、いろんな形で、内地の方で子供たちも預かっていただきながら出産をするというようなことで助けていただいておりますので、内地での出産でございますけれども、今は順調にいつていることと思います。

○知事 よく小笠原の方に行きますと、住む家が少ないということで、これもいろいろ工夫をして、若い方々や、自然にマッチした、そういう住宅を確保できるように、これからも進めていきたいと考えております。

○小笠原村長 その点は是非よろしく、お知恵を出していただければと思います。お願いいたします。

○知事 国境離島ということもありますので、かつて赤珊瑚の問題などもありました国防の観点からも重要な役割を担っていただいているという認識を持っております。これからも島が活性化され、さらに自然も守られるという点でご努力いただきたいと存じます。

○行政部長 それでは、本日の意見交換を終わらせていただきます。今日は遠いところどうもありがとうございました。